

6-6 中部地方北西部（飛驒地方北部，富山湾及び能登半島周辺） の地震活動（1989年7月～12月）

Seismic Activity in the Northwestern Chubu Region (including the Northern Hida,
Toyama Bay and Noto Peninsula Regions), July – December, 1989

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

Kamitakara Crustal Movement Observatory,
Disaster Prevention Research Institute
Kyoto University

前報¹⁾に引続き、1989年7月より12月までのこの地域の地震活動状況を第1図に示す。この期間中の主な活動（図中に番号を付したものは次の通りである。

(1)乗鞍岳南西では引続いて活発な活動が継続しており、7月11日M3.1，同12日M3.3，9月5日M3.1，同22日M3.0および3.1，11月27日M3.1，12月24日M3.0および3.1など $M \geq 3.0$ 以上の地震だけでも8個が発生した。(2)は金沢東方で1月31日に起こったM3.3の地震，(3)は8月13日御母衣断層沿いの上平村で発生したM3.1の地震，(4)は8月31日石川県尾口村で起こったM3.1の地震である。(5)は岐阜県久々野付近に起こった9月9日M3.1，同10日M3.3，および12月8日M3.1の地震，(6)の阿寺断層東方の岐阜県加子母村付近では9月17日M4.0のやや大きい地震が発生した。(7)9月17日跡津川断層東部でM3.0，(8)は12月5日富山湾内のM3.1の地震である。(9)12月14日石川県吉野谷付近でM3.0，(10)12月24日御母衣断層北西端西側でM3.3の地震が起こった。この時期には前述の通り，(2)，(3)，(4)，(9)，(10)など御母衣断層北部西側の活動がやや目立っている。

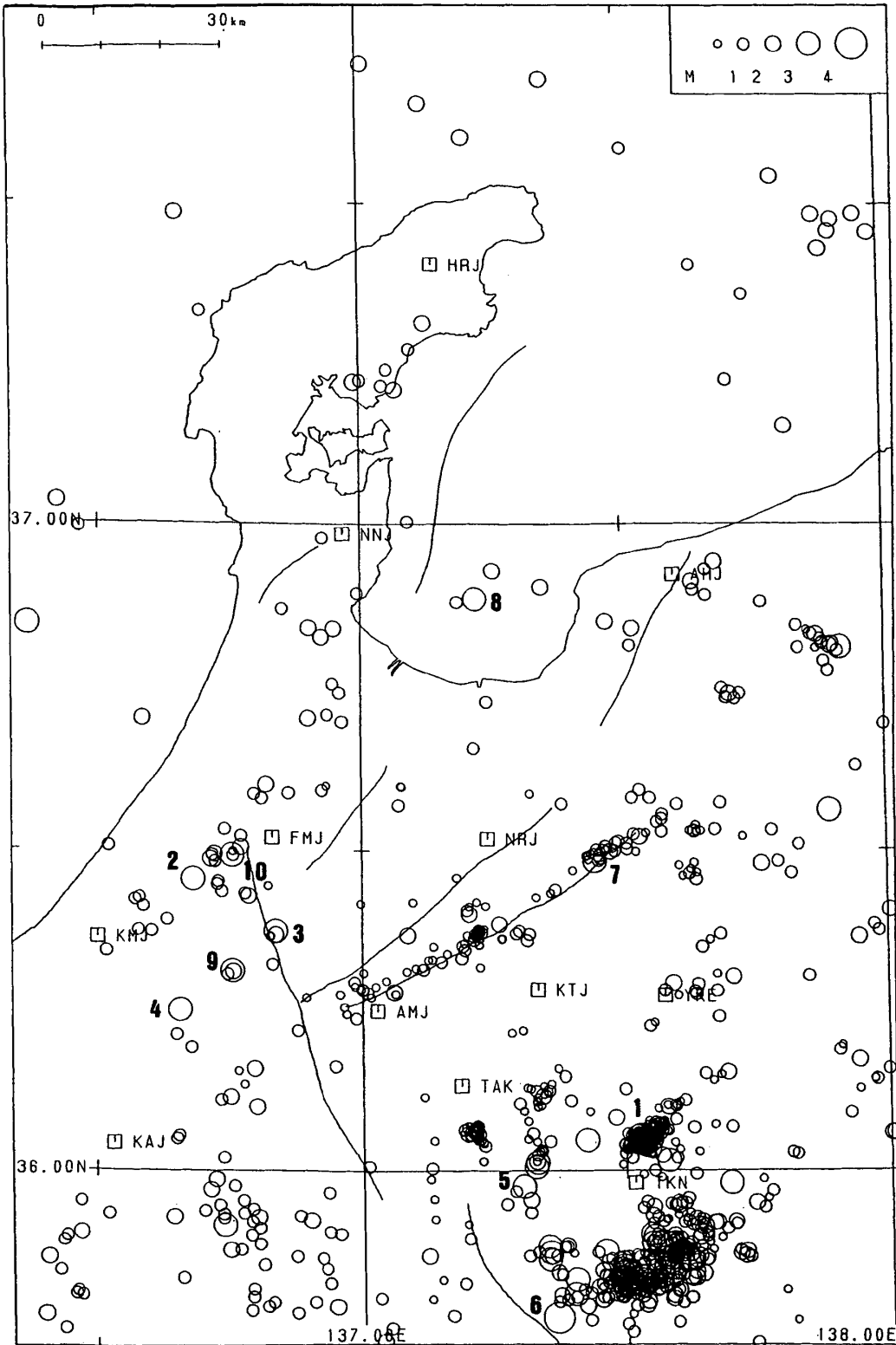
第2図は1985年より1989年末まで5年間の飛驒山脈沿いの地震活動の時空間分析を示す。この図から、1986年3月から始まった乗鞍岳南西の地震活動と、御岳南方の長野県西部地震の余震が引続いて活発であることが分かる。

第3図に1986年以降最近4年間の乗鞍岳南西地域の震央分布を1年毎に示した。1988年以後、震央分布はやや東北側へ伸びている。

第4図に上記のうち，(2)と(6)の地震のメカニズムを示した。前者は正断層成分を含む横ずれ型，後者は逆断層成分を含む横ずれ型である。

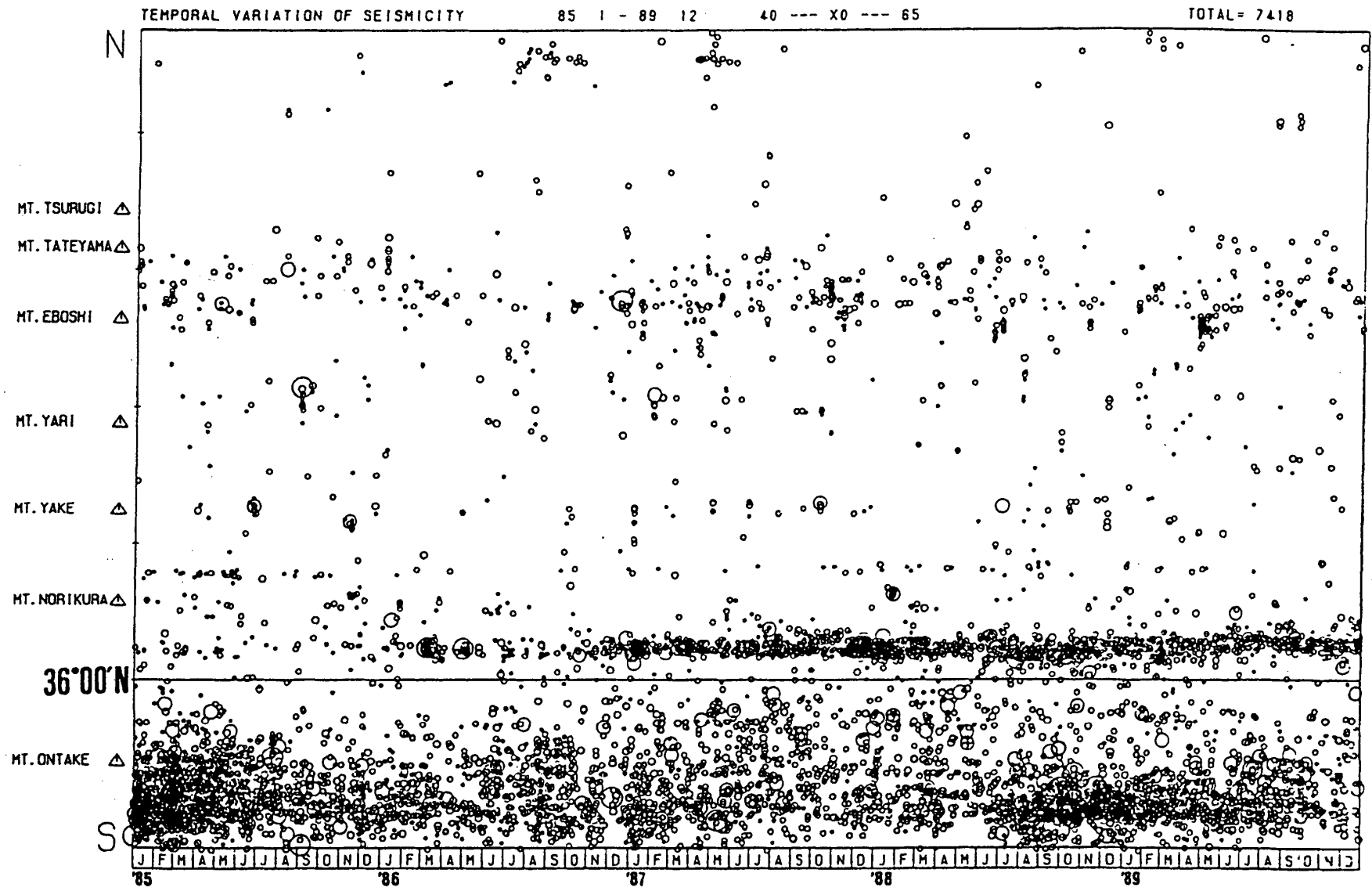
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：中部地方北西部（飛驒地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動，1989年1月－6月，連絡会報，43（1990），408-410。



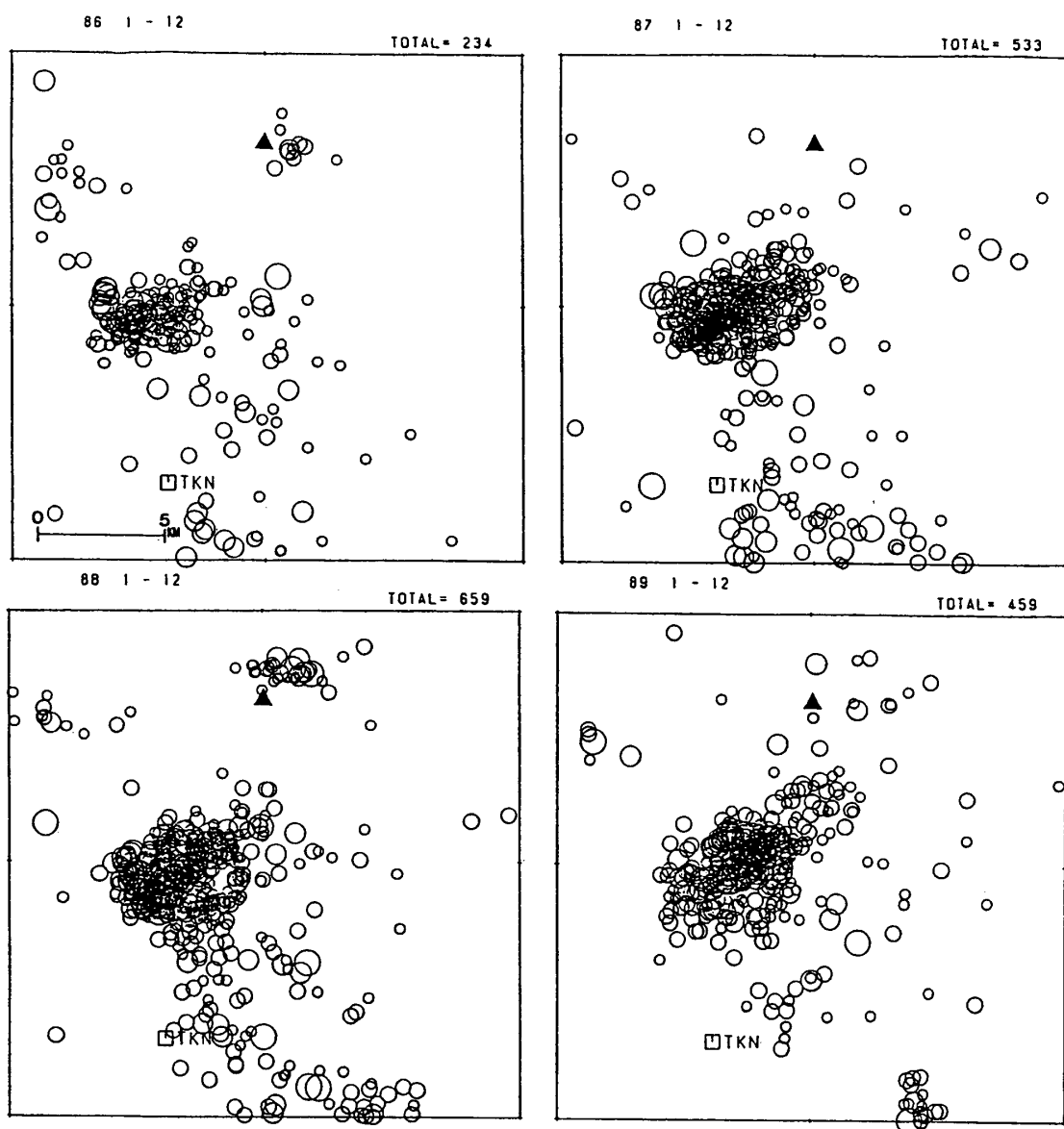
第1図 中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動，1989年7月～12月

Fig. 1 Seismicity in the Northwestern Chubu Region including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula regions, during the period July - December, 1989.



第2図 飛驒山脈下の地震活動の時空間分布，1985年1月－1989年12月

Fig. 2 Temporal variations of seismicity beneath the Hida mountain range during the period between 1985 and 1989.



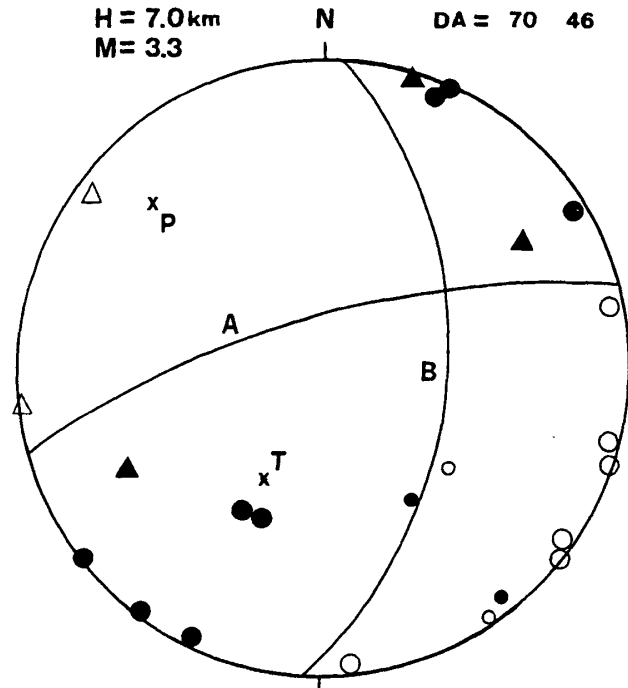
第3図 乗鞍岳南西の震央分布, 1986年~1989年

Fig. 3 Epicentral distribution of earthquakes southwest of Mt. Norikura in the four year's period from 1986 to 1989.

2

July 31, 1989
01h09m
H = 7.0km
M = 3.3

	A	B
DD	344°	93°
DA	70	46

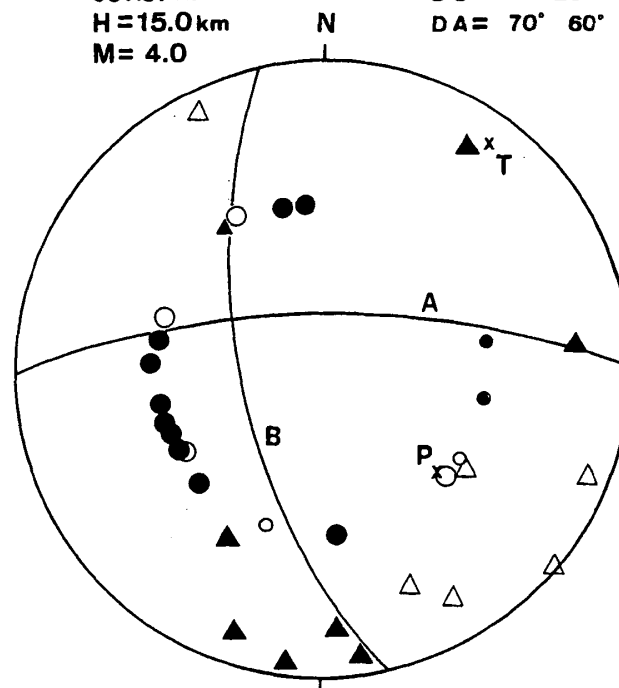


(a)

6

Sep. 17, 1989
03h37m
H = 15.0km
M = 4.0

	A	B
DD	359°	257°
DA	70°	60°



(b)

第4図 主な地震のメカニズム

(a) 金沢東方の地震(2)

(b) 阿寺断層東側の地震(6)

Fig. 4 Focal mechanism solutions of two moderate-size shocks, No. 2; east of Kanazawa, No. 6; east of the Atera fault.